

令和5年度（令和6年度入試）

練馬区立石神井中学校

進路ガイド

第1集

3年_____組 氏名_____

目 次

- 1 校長挨拶 p 2
- 2 進路について p 3
- 3 令和5年度 進路指導年間計画 p 8
- 4 過去3年間の進路先一覧 p 10
- 5 都立高校の入試について p 12
- 6 私立高校の入試について p 19
- 7 推薦基準について p 22
- 8 保護者の皆様へ p 22

1 校長挨拶

自己実現に向けて

校長 櫻井 弘

いよいよ皆さんにとって大切な進路選択の時期を迎えました。中学校卒業後、どのような自分でいたいのか、考え・悩み・決定していきましょう。

「進路」というと、皆さんは上級学校への進学のことを考えがちですが、将来に向けて自分が進むべき方向のすべてが「進路」になります。上級学校へ合格することがゴールではなく、新たなスタートであることを忘れてはいけません。これからの長い人生を見据え、「将来、どのような生き方をするのか」、「将来、自分が自分らしく生きるには、どのようなことを学ばよいか」を考えながら、自分の進路を決めるようにしてください。「今、何をすればよいか」、「自分に合った進路は何なのか」などなかなか決められずに、悩むことがあるかも知れません。そして、大変なプレッシャーやストレスがかかるかもしれません。しかし、目を背けずしっかり向き合ってみてください。皆さんの周りには、友だちや家族、先生方など一緒に考えてくれる多くの味方がいます。自分の望む進路を選択し、その道を切り開いていくことができるように、計画的に学習に取り組み実力を付け、進路に関する正しい知識や情報を収集し、家族や先輩、先生方の助言を参考に考えていきましょう。そして、最後は自分自身が納得して決断していきましょう。

保護者の皆様にお願ひがあります。生徒一人一人の進路は勝ち負けではなく、他の生徒と比較するものでもありません。生徒の性格や特性、家庭状況等を踏まえながら、納得できる進路決定となるように、人生の先輩として助言してあげてください。その際、次のような点にご配慮ください。

- お子さんとの対話の時間を大切にしてください。その中で、将来に向けて、「どのような生き方」をしたいのか、「自分の考え」をもたせてください。
- 合格できる学校ではなく、「3年間学び続けられる学校」、「より自分を成長させてくれる学校」を一緒に考えてあげてください。また、お子さんの適性や性格を的確に把握した上で、進路決定について助言してあげてください。お子さんのことを一番よく知っているのは、保護者の皆様です。
- 進路に関連する資料や情報をしっかりと収集し、それらを参考にしながら進路を決めさせてください。学校からも進路に関する情報や手続きの詳細等、多くのことをお伝えしていきます。何か疑問に思ったこと、わからないことは、遠慮なく担任や学年の教員等にご相談ください。

石神井中学校では、学年の教員を中心として、学校全体で、3年生のことを支援していきます。中学校生活のまとめの一年間が、充実した一年間となるよう、これからもご理解・ご協力をお願いいたします。

2 進路について

進学について

1 高等学校

高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とされています。高等学校に入学することのできる者は、中学校もしくはこれに準ずる学校、もしくは義務教育学校を卒業した者、もしくは中等教育学校の前期課程を修了した者、又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とされています。高等学校は義務教育ではないため、入学を希望する場合には、入学者選抜に合格する必要があります。

<高等学校の種類>

(1) 都立高校（公立高校）

都道府県など地方自治体が設置した高等学校のことです。東京都が設置した公立高校は都立高校と呼ばれます。都立高校に通うためには都内在住であることが条件です。授業料や入学金などの学費が、私立高校に比べて安いです。東京都教育委員会の方針の下、先進的な取り組みをしている高校が多いです。また、都立高校以外の公立高校（県立高校）を受験する場合は、入試制度が違いますので早めに担任の先生に相談してください。

【参考資料】東京都教育委員会HP「見つけよう、自分が行きたい学校」



(2) 私立高校

民間の学校法人が設立した高校です。授業は学習指導要領が基盤ではあるものの、建学の理念に則った教育を行なうなど、学校独自の個性が強いのが特徴です。また、公立高校は特定の宗教や教派に依拠する教育は禁じられている一方、私立高校の場合はカトリック系など宗教教育が可能です。公立高校に比べ、学費が高い傾向もあります。学力や希望進路により多様なクラス・コースを設定していたり、目的に合わせてさまざまな設備が整備されていたりすることも特色です。

【参考資料】東京私立中学高等学校協会公式HP「東京私学ドットコム」



(3) 国立高校

国が設置、運営をする高校ですが、国が直接運営しているのではなく、国立大学法人と独立行政法人国立高等専門学校機構といった団体が運営しています。国立大学附属の高校が多く、クラスは少人数制で個人指導を行う等、教育環境が充実しています。大学進学を前提に、生徒それぞれの個性に合った適性を見出していく指導が行われています。国立大学附属ではありますが、基本的に内部進学制度はありませんので、ご注意ください。都内には、お茶の水女子大学附属高等学校、筑波大学附属高等学校、筑波大学附属駒場高等学校、東京工業大学附属科学技術高等学校、東京学芸大学附属高等学校等があります。

<高等学校の課程>

課程とは、簡単に言うと高校への「通い方」の違いです。現在では、様々な「通い方」を選べるようになっていきます。以下の表では、都立高校を例として挙げています。

令和4年7月調べ

課程	校数	内容
全日制 (学年制)	149校	朝から午後までの日中に授業があり、学習する教科・科目が学年ごとに定められています。修業年限3年です。
全日制 (単位制)	23校	朝から午後までの日中に授業があり、必修(必履修)科目の他に自分に適した教科・科目を選択することができます。学年制よりも、自分で選択できる教科・科目が多いことが特徴です。修業年限は3年です。
定時制 (学年制・夜間)	36校	夕方から夜にかけて授業があり、学習する教科・科目が学年ごとに定められています。修業年限は4年(一部の学校では3年も可)です。
定時制 (単位制・昼夜間)	12校	午前(1部)・午後(2部)・夜間(3部)の中から自分の所属する部を選び、各時間帯の授業を受けます。他の部の授業も受けることができ、自分で選択できる教科・科目が多いことが特徴です。修業年限は4年(3年も可)です。
定時制 (単位制・夜間)	5校	夕方から夜にかけて授業があり、必修(必履修)科目の他に自分に適した教科・科目を選択することができます。学年制よりも、自分で選択できる教科・科目が多いことが特徴です。修業年限は4年(3年も可)です。
通信制	3校	自宅等で学習し、レポートなどの添削指導を受けながら、月2日程度定められた日に登校し、通学して先生から授業(「面接指導」や「スクーリング」とも呼びます。)を受けます。修業年限は3年です。
中等教育学校・ 附属中学校	10校	中等教育学校は、最初の3年間(中学校相当)を前期課程、後の3年間(高校相当)を後期課程といい、後期課程からの入学者の募集はありません。 附属中学校は、接続している都立高校に進学する場合は、高校入試がありません。高校からの入学者の募集も停止されました。 いずれも、6年間の一貫教育を行っています。 (私立高校は、後期課程からの入学者を募集している学校も多くあります。)

※修業年限とは、教育課程を卒業・修了するのに必要とされる標準的な年限のことです。

<高校の学科について>

高校では、学ぶ内容によって、複数の学科に分かれています。一般的な教科を学習する「普通科」が多いですが、専門科目の勉強を行うことができる「専門学科」もあります。以下の表では、都立高校を例として挙げています。

学科	校数	内容
普通科	133校	一般的な中学校と同様に、各教科（国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、外国語など）を中心に学習します。
普通科 （コース制）	6校	通常の普通科よりも、各学校で重点を置く学習内容（授業）が充実しており、1年次から、外国語コース（深川・松が谷・小平）、外国文化コース（田柄）、造形美術コース（片倉）、ことばと情報コース（五日市）の各コースに分かれて学習します。
農業科	5校	「農業に関すること」といっても、園芸・ガーデニング、フラワーアレンジメント、牛やペットの飼育、食品調理や庭園造りなど学科によって学習内容は様々。実習を通じて資格取得なども支援しています。例：農芸・農業等
工業科	18校	ものを作ること、機械・道具を操作すること、考え工夫することが好きな人、大歓迎です。機械・自動車・電子工作の他、建築や化学、デザインについて学習することができます。例：練馬工科・杉並工科・中野工科等
工業科 （デュアルシステム科）	3校	工業科の中でも機械系の学習のほか、ものづくり企業で1～2か月の企業での実習（長期インターンシップ）を授業として取り入れています。実際に働く体験を通じて、自分にあった企業や仕事を探することができます。六郷工科・葛西工科・多摩工科の3校があります。
工業科 （科学技術科）	2校	理系大学への進学を目標に、実験や研究活動を通じて科学技術について深く学習することができます。科学技術・多摩科学技術の2校があります。
商業科	8校	簿記やコンピュータなど専門分野の学習に加え、企業と連携して実際のビジネスを体験する実習などがたくさん用意されています。社会で役に立つ資格を取るための勉強ができるのも特徴です。例：第四商業・第一商業・芝商業・足立等
商業科 （ビジネス コミュニケーション科）	2校	ビジネスに関する科目の他、英語でのコミュニケーションや情報処理などの知識・技能を身に付けることができます。大学進学を目標にしながら、ビジネスについても学ぶことができます。千早・大田桜台の2校です。
情報科	1校	コンピュータプログラムやコンピュータ言語、グラフィックなどを自分で研究しながら学ぶことができます。新宿山吹高校（定時制）にあります。学習状況次第で3年間でも卒業ができます。

水産科	1校	大島海洋国際は、海洋に関する授業・実習や各種研究機関との連携を通して、実践的な海洋教育を行い、海洋関連産業の幅広い分野で活躍できる人材を育成します。
家庭科	4校	栄養士、保育士、デザイナーなど、家庭生活に直結する職業につくための基礎を学びます。たくさんの実習を通して、料理や栄養、服飾デザインなどを学ぶことができます。赤羽北桜・農業等・忍岡・瑞穂農芸の4校があります。
福祉科	2校	病院や福祉施設などでの実習を通して、近年人材不足と言われる福祉・看護の世界で働く人を目指します。 赤羽北桜・野津田の2校があります。
理数科	1校	理数系分野の幅広い素養と情報活用能力等を高いレベルで併せもつとともに、それらを生かして文理融合的な視点から新しい価値（イノベーション）を生み出すことのできる人材を、高度な課題研究の実践などを通じて育成することを目指します。立川高校に理数科があります。
芸術科	1校	音楽、美術、舞台表現に関する専門的な科目を学習する学科です。音楽については器楽・声楽・作曲・楽理の4つの専攻、美術は日本画・油彩画・彫刻・デザイン・映像の5つの専攻、舞台表現は演劇・舞踊の2つの専攻があります。総合芸術に芸術科があります。
体育科	2校	体育・スポーツに関する専門科目の学習を行うことにより、保健体育に関する知識・技能を身に付けます。共通科目の他に、学校によりバレーボール、バスケットボール、サッカー、体操、陸上、水泳、柔道、剣道などの専攻に分かれた専門の学習を行います。駒場・野津田の2校があります。
国際学科	2校	国際理解教育や英語などの外国語教育を通して、国際社会で活躍できる人材を育成する学科です。国際高校と大島海洋国際高校（現高校2・3年生のみ）の2校があります。
併合科	4校	二つ以上の学科が一緒になっている学科です。都内では3校があります。農業科と家庭科（大島・三宅・八丈） 農業科と普通科（瑞穂農芸高校（定時制））
総合学科	16校	国語や数学などを学ぶだけでなく、工業や商業、農業、福祉、看護、美術などの幅広い選択科目の中から、自分の進路希望に合った科目を選択して学習する学科です。 例：杉並総合・晴海総合・つばさ総合・世田谷泉総合等
産業科	2校	橘高校と八王子桑志高校があります。橘高校では、デザイン・クラフト等のものづくりやビジネス会計などを学びます。八王子桑志高校ではデザインやコンピュータについて学びます。

2 高等専門学校

中学校卒業生を対象とした、修業年間5年間の一貫した専門教育を行う、大学と並ぶ高等教育機関です。卒業生には準学士の称号が与えられます。学科は、機械工学、電気、電子工学、情報、デザイン等に関わる学科があります。また、高専卒業生を3年生に編入させる大学や、高専卒業生のために設置された大学院レベルの大学もあります。都内には国立東京工業高専（八王子）、都立産業技術高専（品川・荒川）、私立サレジオ高専（町田）があります。都立高専の応募資格は、都立高校と同じで、推薦入試・一般入試の両方があります。

【参考資料】東京都立産業技術高等専門学校HP



3 専修学校(高等専修学校)

高等専修学校（専修学校高等課程）は、中学卒業生を対象に実務面にウェイトをおいた教育を行っています。専修学校は、文部科学省により「工業」「農業」「医療」「衛生」「教育・社会福祉」「商業実務」「服飾・家政」「文化・教養」の8つの分野に分類されています。

令和2年度の学校基本調査によれば、都内にある私立専修学校392校のうち、高等課程を設置しているのは41校です。医療関係（おもに准看護）、衛生関係（調理、製菓、理容・美容）、文化・教養関係の学科を置く学校が多く、なかには複数の分野の学科を持つ学校もあります。専修学校の高等課程には、学科によって1年制から5年制までいろいろなコースがあります。

【参考資料】公益社団法人東京都専修学校各種学校協会



4 職業能力開発センター

新たに職業に就かれる人、求職中の方、転職を希望している人を対象に、就職を目指し、職業に必要な知識・技能を習得していくための施設です。機械または溶接の技能を身につけられます。卒業後、ハローワークの紹介により就職を斡旋します。

【参考資料】東京都 TOKYO はたらくネット



就職について

就職に関しては、「ハローワーク（公共職業安定所）」を通して紹介してもらう場合と、縁故によるものがあります。また、昼間は働きながら夜間の定時制高校に通い働きながら学ぶ方法もあります。企業内高校といい、給料を貰いながら学び就職できる学校もあります。日野自動車株式会社企業の企業内訓練校である日野工業高等学園がそれにあたります。就職希望の場合は早めに担任の先生に相談してください。

【参考資料】東京労働局 東京ハローワーク



3 令和5年度 進路指導年間計画

月	生徒	保護者	学校行事	この時期にやるべきこと
4月		21 保護者会 ・進路年間予定 ・推薦基準	18 全国学力・学習状況調査 (国語・数学・英語)	・1学期期末考査に向けた勉強 ・基礎固め ・苦手教科の克服
5月	総合ガイダンス 進路学習 ・進路年間予定 ・進路計画作成		8 全国学力・学習状況調査 (英語 話すこと)	・行事・部活動への取り組み ・学校説明会等への参加
6月	10 進路講演会	進路希望予備調査	10 進路講演会 14～16 期末考査	
7月	3 領域診断テスト① 7 進路説明会① 進路希望調査① 21～27 夏季三者面談		7 進路説明会① 21～27 夏季三者面談	
8月	学校説明会・部活動体験参加 23～25 学力補充教室		23～25 学力補充教室	・3年間の総復習 ・学校説明会等への参加 ・模擬試験の受験
9月	進路希望調査② 領域診断テスト②		21～22 中間考査	・2学期中間考査・期末考査に に向けた勉強
10月	進路希望調査③ 20 進路説明会② 30～ 進路面談		20 進路説明会② 30～ 進路面談	・学校説明会等への参加 ・個別相談会への参加(私立) ・受験形態に合わせた対策
11月	～6 進路面談 面接練習 調査書記載事項 準備 進路希望調査④ 26 中学校英語スピーキングテスト		～6 進路面談 9～11 期末考査	・模擬試験の受験 ・志望校の選択・決定
12月	1～7 冬季三者面談 作文・集団討論練習 自己PRカード 準備 推薦願・併願優遇願 作成 調査書作成願 作成 17 中学校英語スピーキングテスト 予備日		1～7 冬季三者面談 15 私立入試相談	

1月	願書作成・出願準備 私立推薦出願 私立推薦入試 12～18 都立推薦出願 26～27 都立推薦入試 私立一般出願 31～ 都立一次・前期出願		・志望校の決定 ・過去問・予想問題による演習 ・体調管理
2月	願書作成・出願準備 2 都立推薦発表 私立一般出願 ～6 都立一次・前期出願 私立一般入試・発表 21 都立一次・前期入試	22～26 学年末考査	
3月	1 都立一次・前期発表 6 都立後期・二次出願 9 都立後期・二次入試 14 都立後期・二次発表 21 都立定時制二次出願 26 都立定時制二次入試 27 都立定時制発表	19 卒業式	

令和6年度 都立高等学校 入学者選抜の日程

日程	入試 推薦に基づく選抜	学力検査に基づく選抜		
		第一次・分割前期	分割後期・第二次	定時制第二次
出願受付期間	1月12～18日	1月31日～2月6日	3月6日	3月21日
実施日	1月26・27日	2月21日	3月9日	3月26日
合格発表日	2月2日	3月1日	3月14日	3月27日

※分割募集：店員を前期と後期に分割し、2回に分けて行う募集

※第二次募集：第一次募集で欠員のある学校が行う欠員補充の募集

※インフルエンザ等学校感染症罹患者等に関する追試験は、分割後期募集及び全日制第二次募集の日程で実施します。

4 過去3年間の進路先一覧

<都立高校・国立高校>

		R2		R3		R4	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子
普通科	日比谷	1		1	2	3	1
	戸山		1	3	1	3	
	竹早	1		3	2	1	1
	駒場					1	
	青山	3		1		2	1
	広尾						1
	鷺宮	5		1	1	1	1
	武蔵丘	2	5	2	2	5	4
	杉並	1					1
	豊多摩	3		1		3	
	西	2	1	3		3	
	豊島	1	3				
	文京	3	1	3			4
	板橋	3		2		1	
	北園	1	1	1			2
	高島					1	
	井草	1	2		1	3	4
	大泉	1	1				
	石神井	2	2	3	3	2	3
	田柄		1	1	1		
	練馬	2	1	2		2	4
	光丘	1	1	8		2	
	武蔵野北		1	4	2	5	1
	小金井北	2	1		1		
	小平		2	1	2		1
	日野					1	
	日野台						1
	小平西		1				
	調布北		1				
	東大和				1		
清瀬	1		2		4	2	
久留米西		1				1	
田無	1	3	1	1	1		
保谷	1	2	3	3	4	3	
国立	1	1			1		
東村山			1				

		R2		R3		R4	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子
普通科単位制	新宿	3	2	1	1	3	1
	国分寺					1	
	板橋有徳	1					
	大泉桜	2	4		4	4	6
農業	農業			1			
	農芸		1	3	2		4
工業	杉並工業	4	1			1	
	総合工科					1	
	練馬工業			3		2	
	田無工業	1		1		2	
商業	多摩科学技術				1	1	
	第四商業				1	1	
体育国際	千早	1			1		2
	駒場			1			
総合	国際			1	1		
	杉並総合				1		3
	王子総合				1		1
	晴海総合		1		1		
昼夜間定時特支	東久留米総合		1				1
	新宿山吹(普情)			1	1		
	荻窪(普)		2	1			
国立	稔ヶ丘(総)	2	1	4		2	
	特別支援学校	9	2	6	4	6	4
他県	筑波大附属						1
	東京工業大学附属			1		1	
	東京芸術大学附属						
他県	県立高等学校	4	1	2	1		

< 私立高校 >

		R2		R3		R4	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子
男子校	岩 倉			2			
	開 成			1			
	慶應義塾	3					
	慶應義塾志木					1	
	京 華			2			
	城 北	1					
	日本学園			1			
	保 善	1		8		3	
	明治大学付属中野					1	
	早稲田大学高等学院	1				2	
女子校	神田学園						1
	慶應義塾女子				1		
	自由学園女子部						1
	白梅学園						1
	十 文 字				1		1
	立川女子						1
	東京女子学院		7				
	東京家政大学附属女子		1				
	日本体育大学桜華				1		
	日本大学豊山女子		1		1		
	富士見丘		1				
	藤村女子		1				1
文華女子		1					
共 学 校	郁 文 館	1					
	上野学園						1
	関東国際		1				1
	錦 城	2	4		3		1
	錦城学園		1				
	京華商業	1					
	啓明学園			1			
	國 學 院	1	1				1
	國學院大學久我山	1					1
	駒場学園	1					
	埼 玉 栄						1
	桜 丘				1		
	実践学園	1			1	1	2
	芝浦工業大学附属		1				
	芝 国 際					1	
	自由ヶ丘学園			1			1
	淑 徳			2			
	淑徳巣鴨	2			1		
	城西大学附属城西		1		2	1	
	聖徳学園					2	2
	昭和第一					1	
	昭和鉄道	3				1	
	杉並学院		1	3		1	1
	駿台学園	2					
成 蹊	1				1	1	
西武学園文理	1		2				

		R2		R3		R4	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子
共 学 校	聖望学園						1
	専修大学玉名						1
	専修大学附属	1		3			
	大 成		1		2	1	1
	大智学園	1					
	大東学園						1
	大東文化大学第一	2	2	1			
	拓殖大学第一			1	1		
	中央学院大学中央	1					
	中央大学杉並	1	2	1	1		5
	帝京長岡						1
	貞静学園		1		2		
	東亜学園	1	1		2	3	2
	東海大学附属高輪台			1			
	東京成徳大学						1
	東京実業						1
	東京女子学院				2		
	東京電機大学			1			1
	東京農業大学第一			1			
	東京立正			2			1
	トキワ松学園						1
	豊島学院	2	1	2	3	4	3
	日本大学櫻丘	2	2				
	日本大学第一						1
	日本大学第二	2	1	4	1	1	
	日本大学鶴ヶ丘	1		1	1		1
	日本工業大学駒場		1				1
	広尾学園小石川				1		
	文化学園大学杉並		1		1	1	1
	法政大学				1		
	豊 南	3	1	2	1	2	2
	北星学園大学附属						1
	堀 越	2					
	明星学園		1	2			1
	武蔵野	1		1			1
	武蔵野大学		3	2	2		
	明治学院東村山	2					1
	明治大学中野八王子				1		
	明 法				1		
	目黒日本大学				1		
目白研心	4		1	1		1	
立正大学付属立正						1	
麗 澤						1	
早稲田佐賀						1	
早稲田渋谷シンガポール		1					
早稲田大学本庄高等学院						1	
通信制	6	3	4	2	2	1	
専修学校	3	2		2		1	

5 都立高校の入学選抜について ※令和5年度入試の要綱より

1 推薦に基づく選抜

推薦に基づく選抜として、一般推薦、文化・スポーツ等特別推薦（以下「特別推薦」という。）及び理数等特別推薦（以下「特別推薦（理数）」という。）を設けています。

（1）推薦に基づく選抜の種類

①一般推薦

基礎的な学力を前提に、思考力、判断力、表現力等の課題を解決するための力や、自分の考えを相手に的確に伝えるとともに、相手の考えを的確に捉え人間関係を構築するためのコミュニケーション能力など、これからの社会にあって生徒たちに必要となる力を評価し、選抜します。

②特別推薦

各都立高校の個性化・特色化を推進するため、卓越した能力をもつ生徒の力を評価し、選抜します。スポーツ、英語など項目を示し、それに該当する生徒を募集するものです。約80校で実施しています。

③特別推薦（理数）

科学技術の根底にある理数系分野の素養を前提に、探究の過程を通して、課題を解決する力や、他者の考えから自分の考えを深めるとともに、新しい価値を生み出す創造性など、変化し続ける社会にあって生徒たちに必要となる力を評価し、選抜します。立川高校創造理数科にて実施されています。

※一般推薦と特別推薦両方を受検することができます。

（2）応募資格

志願する都立高校を第1志望し、在学している中学校長の推薦を受けた者

※合格したら必ず入学することになります。辞退はできません。

（3）募集人員

普通科で募集定員の20%（コース制30%）まで、専門学科・総合学科などでは30%（工業科は40%）までとなっています。

（4）検査内容

一般推薦の志願者全員に個人面接を実施する。また、小論文又は作文、実技検査、その他学校が設定する検査（以下「小論文又は作文等の検査」という。）のうちから、当該都立高校長が定めたいずれか一つ以上の検査を実施します。

特別推薦の志願者全員に個人面接又は集団面接及び実技検査を実施し、その他の検査の内容については当該都立高校長が定めます。

特別推薦と同時に一般推薦を志願する者については、一般推薦において実施する個人面

接及び小論文又は作文等の検査についても課すものとします。

特別推薦（理数）の志願者全員に科学分野等の研究に関するレポートに関する口頭試問、個人面接及び小論文の検査を実施します。

推薦入試での調査書点は、学習状況や意欲・適正などをきめ細かく評価した観点別学習状況の評価（A・B・C）と必修9教科の評定（5・4・3・2・1）のどちらか一方が活用されます。

※自己PRカードは、「志望理由について」、「中学校生活の中で得たことについて」、「高等学校卒業後の進路について」の3項目について記入します。点数化することなく、面接の際の資料として活用されます。

2 学力検査に基づく選抜（一次募集・分割前期募集）

（1）学力検査

学力検査の教科について、全日制は5教科（国語・数学・英語・理科・社会）500点満点とします。定時制では、3教科（国語・数学・英語）300点満点とします。

※検査は原則として各校共通問題で行われますが、一部の高校では、グループ作成問題を使用し、英語・数学・国語の3教科については各グループ独自で学力検査問題が行われました。（理科・社会は都立高校共通問題を使用）

グループは以下の通りです。

進学重点校グループ：日比谷・西・国立・八王子東・戸山・青山・立川

進学重視型単位制高校グループ：新宿・墨田川・国分寺

英語のみ自校で作成：国際

（2）選考方法

学力検査と内申の比率

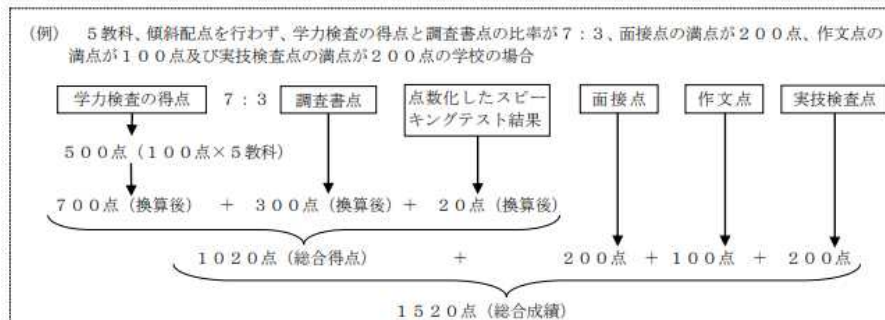
学力検査の結果、調査書に記載された評定（調査書点）、スピーキングテストの結果は合計1020点満点になるように換算します。学力検査と調査書点の原則比率は7：3とし、合わせたものを「総合得点」といいます。

面接や作文、実技検査を実施する学校では、さらにそれらの結果を加えて「総合成績」を出し、その順に合格候補者を決定します。

調査書点の算出方法

$$\text{各受検者の調査書点} = \text{各受検者の評定の得点} (\ast) \times \frac{\text{調査書点の満点}}{\text{評定の満点}}$$

※ 学力検査を実施する教科の評定を1倍、学力検査を実施しない教科の評定を2倍として算出したものです。



(3) 志願変更

全日制の都立高校の志願者は、願書提出後、1回に限り志願の変更をすることができます。同一都立校内に普通科とコース、農業科と家庭科等、複数の学科がある場合は、それぞれ別の学科として扱うため、一方に出願後、他方へ志願変更することができます。ただし、入学願書の返却を受けた都立高校の同一のコースおよび科（分野）に再提出することはできません。また、同一の都立高校内になる同一学科内の科（分野）相互間の志望順位の変更もできません。

<志願変更ができる例>

- (例1) 八潮高校の普通科に出願後、異なる学科である芝商業高校のビジネス科へ志願変更をすることができる（その逆も可能）。
- (例2) 富士森高校の普通科に出願後、コースを置く片倉高校の造形美術コースへ志願変更をすることができる（その逆も可能）。
- (例3) 国際高校の国際学科に出願後、コースを置く小平高校の外国語コースへ志願変更をすることができる（その逆も可能）。
- (例4) コースを置く深川高校の外国語コースに出願後、同じ深川高校の普通科へ志願変更をすることができる（その逆も可能）。
- (例5) 農業高校の農業に関する学科の食品科学科に出願後、同じ農業高校の家庭に関する学科の食物科へ志願変更をすることができる（その逆も可能）。

<志願変更ができない例>

- (例1) 園芸高校の農業に関する学科の動物科を第1志望として出願後取り下げ、同じ園芸高校の農業に関する学科の食品科を第1志望として再提出することはできない（同一校同一学科への再提出はできない。志望順位の変更もできない）。
- (例2) 六郷工科高校の工業に関する学科のプロダクト工学科を第1志望として出願後取り下げ、同じ六郷工科高校の工業に関する学科のデュアルシステム科を第1志望として再提出することはできない（同一校同一学科への再提出はできない。志望順位の変更もできない）。
- (例3) エンカレッジスクールの蒲田高校に出願後取り下げ、チャレンジスクールの六本木高校に再提出することはできない（全日制からチャレンジスクールへの志願変更はできない。その逆は可能）。

3 中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）について

東京都教育委員会は、グローバル人材を育成するために、小・中・高校で一貫した英語教育を推進しています。中学校で学習した「話すこと」に関する技能の習得状況の成果と課題を検証し、指導の更なる充実を図るために、昨年度から都内公立中学校第3学年生徒を対象に、「中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）」を実施しています。今年度からは全学年を対象として実施されます。このテストは、都立高校の入学者選抜において評価として活用されます。3年生全員が対象ですので、申し込みは学校でも指導していきます。

- (1) 実施日 令和5年11月26日（日） ※ 予備日：令和5年12月17日（日）
- (2) 会場 都立高等学校、大学、民間施設等
※昨年度、本校生徒は、都立石神井高校会場で受験しました。
- (3) 対象 都内公立中学校に在籍する第3学年全生徒

(4) 実施方法

事業者が用意するタブレット端末等を用いて、生徒を前半試験実施と後半試験実施の2組に分けて実施します。準備時間を含み前半試験実施と後半試験実施、各65分程度となります。

(5) 受験申込

受験申込は、専用のWEBサイト（生徒用マイページ）により行います。学校を通して、①中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)（生徒用リーフレット）、②生徒個人IDの御案内、③生徒用申し込みマニュアルを配布致しますので、ご確認ください。受験申込の仕方に関しては、学校でも事前に指導する予定です。

事項	都内公立中学校生徒	
	通常申込	追加申込 (9月以降に転入した場合)
受験申込	令和5年7月6日(木)から 令和5年9月22日(金)まで	令和5年9月12日(火)から 令和5年10月5日(木)まで
特別措置申請	令和5年7月6日(木)から 令和5年8月18日(金)まで	令和5年9月12日(火)から 令和5年9月21日(木)まで
本試日受験	令和5年11月26日(日)	
予備日申込	令和5年11月29日(水)から 令和5年12月1日(金)まで	
予備日受験	令和5年12月17日(日)	
結果返却 (本試日)	WEB 令和6年1月11日(木)	郵送 令和6年1月22日(月)
結果返却 (予備日)	WEB 令和6年1月25日(木)	郵送 令和6年1月30日(火)

(6) 問題構成及び評価の観点

Part	ねらい	出題数	評価の観点※		
			(7)	(f)	(g)
A	英文を読み上げる形式の問題で、英語音声の特徴を踏まえ音読できる力をみる。	2			○
B	図示された情報を読み取り、それに関する質問を聞き取った上で、適切に回答する力や、図示された情報をもとに「質問する」、「考えや意図を伝える」、「相手の行動を促す」など、やり取りする力をみる。	4	○		
C	日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝えるように状況を説明する力をみる。	1	○	○	○
D	身近なテーマに関して聞いたことについて、自分の意見とその意見を支える理由を伝える力をみる。	1	○	○	○

※評価の観点

(7) コミュニケーションの達成度(2段階)

・コミュニケーションの目的の成立

(f) 言語使用(5段階)

・語彙、文構造、文法の適切さ及び正しさ

・内容の適切さ(一貫性・論理構成)

(g) 音声(4段階)

・発音 ・強勢 ・イントネーション ・区切り

※以上の評価の観点に基づき、A(20点)、B(16点)、C(12点)、D(8点)、E(4点)、F(0点)で採点されます。

(7) 特別措置

個別の状況や障害特性等のある受験者や日本語指導の必要な受験者に対する特別措置があります。特別措置を希望する場合は、受験申込の前に措置申請を行う必要があります。詳細は、東京都教育委員会HP 中学校英語スピーキングテスト実施要項をご確認ください。

<事由の例>

- ・緘黙、きつ音や発話障害、難聴等の障害・疾患により、英語「話すこと」の評価ができない場合
- ・何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校したくてもできない状況になる場合

(8) 追試験・再試験

実施日に、やむを得ない理由（病気・忌引等）で受験することができず、在籍中学校長が認め、かつ予備日申請により承認された生徒は、予備日に追試験を受験することができる。申請期限までに中学校の公印が入った「予備日（追試験）受験申請書」を作成し、生徒用マイページから受験申込をする必要があります。詳細に関しては、英語科までお問合せください。

<対象となる例>

- ・インフルエンザ等への罹患
- ・学校保健安全法第19条による出席停止
- ・その他、受験者本人の責めによらない、やむを得ない理由（病気による入院、交通事故による負傷、忌引等）

※都立高校入試でスピーキングテスト結果を活用する際に「不受験者に対する措置」を行うのは、インフルエンザの罹患などのやむを得ない理由により、当日も予備日もテストを受験できなかった生徒などが対象となります。「テストを休んだ方が入試においては点数が高くなる」という理由でテストを受験しなかった場合は、「不受験者に対する措置」はなく、点数は0点となります。

【参考資料】東京都教育委員会【特設ページ】中学校英語スピーキングテスト



4 学力検査に基づく選抜（分割後期募集・二次募集）

（1）募集人員

一部の高校は、前期と後期で分割募集を予定しています。

分割後期募集を行うのは、以下の高校です。

例：田柄高校、大山高校、深沢高校、日本橋高校、八潮高校等

一次募集で定員に達しなかった高校は、その相当人員について二次募集を行います。

（2）応募資格

推薦および一次募集で合格した者、また私立高校などに入学手続きをした者は応募できません。

（3）学力検査

国語、数学、英語の3教科で実施し、面接も多くの学校で行われます。

※募集人員が少ないので、厳しい選抜となることを覚悟しなければなりません。

5 その他の入試

（1）海外帰国生徒対象・在京外国人生徒対象の入学者選抜

都立高校では、海外帰国生徒・在京外国人生徒対象の入学者選抜があり、一般の学力検査とは別の日程で実施されます。応募資格に海外での在住年数、帰国後の年数などがあります。ご確認の上、担任にご相談ください。

海外帰国生徒：三田高校、竹早高校、日野台高校、国際高校

在京外国人生徒：竹台高校、田柄高校、南葛飾高校、府中西高校、飛鳥高校、六郷工科高校、杉並総合高校、国際高校

	海外帰国生徒	在京外国人生徒	在京外国人生徒（国際）
出願受付期間	2月6日・7日	1月23日・24日	2月8日・9日
実施日	2月15日	1月26日	2月15日
合格発表日	2月19日	2月2日	2月19日

（2）エンカレッジスクールの入学者選抜

中学校で十分力を発揮できなかった生徒を励ます学校です。基礎からやり直すことができる工夫がされています。小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援する学校として、社会生活を送る上で必要な基礎的・基本的学力を身に付けることを目的としています。定期考査がなく、2人担任制、30分授業、レベル別習少数授業を行っている学校もあります。基礎・基本を徹底するとともに体験学習を重視しています。入学者選抜では学力検査は実施されず、調査書、面接、小論文、実技検査等で合否が決まります。練馬工科・中野工科・蒲田・足立東・東村山・秋留台の6校がエンカレッジスクールに指定されています。

（3）チャレンジスクールの入学者選抜

チャレンジスクールは、主に小・中学校で不登校の経験があったり、高校で中途退学を経験したりして、これまで能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒が、自分の目標を

見付け、それに向かってチャレンジする高校です。自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて各時間帯（午前・午後・夜間の三部）を選んで入学する、昼夜間の定時制・総合学科・単位制の高校です。4年間かけて学ぶことを基本としますが、他部の科目の履修等により、3年間での卒業も可能です。入学者選抜では調査書の提出はなく、学力検査も実施されません。面接、作文及び志願申告書によって合否が決まります。稔ヶ丘・六本木・大江戸・世田谷泉・桐ヶ丘・小台橋・八王子拓真（チャレンジ枠）の7校が指定されています。

（４）通信制の入学者選抜

通信制の都立高校は、自宅等で学習し、レポートなどの添削指導を受けながら、月2日程度定められた日に登校し、通学して先生から授業（「面接指導」や「スクーリング」とも呼びます。）を受けます。修業年限は3年です。入学者選抜は4月上旬に行われます。一橋・新宿山吹・砂川の3校があります。

6 入学者選抜に関する注意点

（１）インターネット出願

令和5年度の推薦に基づく選抜、学力検査に基づく選抜（一次募集・分割前期募集）において、都立高校全校でインターネットを活用した出願を実施しました。今年度の入試でも、都立高校全校で実施する見込みです。都立高校専用出願サイト「miraicompass」を通して出願することになります。複数の手続きを各ご家庭で行うこととなります。昨年度、本校の出願でも、入力間違いが多く見られました。中学校でも事前指導を行いますが、各ご家庭でも今後ネットにて公開予定の「インターネット出願の利用の手引き」をご確認の上、手続きを進めてください。

【参考資料】 令和5年度東京都立高等学校入学者選抜におけるインターネットを活用した出願について



（２）男女別定員の緩和

東京都教育委員会は、男女別定員を定めている都立高校の男女合同定員による入学者選抜への移行について、段階的に進めていくこととしています。令和5年度入学者選抜では、男女別定員を定めている全校（108校）において、男女それぞれの定員の20%を男女合同とする男女別定員の緩和措置を実施しました。その結果の分析・検証を行い、令和6年度入学者選抜以降、早期に男女合同選抜へ移行することを目指しています。早ければ、令和6年度入学者選抜にて、男女合同定員へ移行する可能性があります。

（３）調査書における出欠の記録

令和5年度入学者選抜より、調査書における主欠の記録の項目が削除されました。

（私立高校は、各高校により調査書の記載内容は異なってきますので、ご確認ください。）

6 私立高校の入試について

私立高校は、独自の教育方針をもち、校風もバラエティ豊かです。教育方針に基づき、徹底した進学指導、あるいは就職指導を行うところも多くなっています。また、大学附属の場合はその大学への優先入学制度をもっている場合があります。ここ数年の傾向として、男子校、女子校が共学校へ移行してきています。近年は学力重視で教育に力を入れ、難関大学の合格者を多数輩出している進学校や名門校、無試験で大学まで進学できる大学付属の私立高校が人気を集めています。

私立高校は国や自治体が設置する公立などと違い、学校法人が運営していることから、学費が高額なのが特徴です。入学金をはじめ、授業料や諸費用など、公立高校と比べ、倍近くかかるといわれていますが、その分設備が充実しているなどメリットも多くみられるほか、入学試験の結果により、優秀な学生は入学金や授業料の免除がされたり、一部割引を受けられたりする特待生制度というものもあります。

私立高校の入試に関しては、各自で高校説明会等に参加し、出願に必要な書類を用意して下さい。入試要項は例年10月以降に出来上がります。

国や東京都による家庭の学費負担を軽減する制度

・高等学校等就学支援金制度

国公立校問わず、高校等の授業料の支援として「年収910万円程度」未満の世帯に年間11万円程度支給されます。入学した学校で申請することになります。

・東京都私立高校授業料軽減助成金

住民税額が一定基準以下（年収目安760万円未満の家庭）に、約45万円（就学支援金と合わせて）の範囲内で、保護者が負担する授業料が上限です。

【参考資料】東京都私学財団HP



1 推薦入試 ※都内の私立高校の多くは1月22日前後に試験を行います。

推薦入試には、以下の条件全てを満たす必要があります。中学校の入試相談日（12月15日）までに、各高校の個別相談会に参加し、相談を済ませておく必要があります。

（1）応募資格

①石神井中の「推薦に値する生徒」の条件を満たし、学校長の推薦を受けられる生徒であること。 ※石神井中の推薦基準に関しては、p22をご参照ください。

②その高校が第1志望であること。

③その高校から示される入試基準を満たしていること。

※10月以降に各高校の説明会等で提示されます。すでに提示している高校もあります。同じ高校でも、コースや学科によって基準は異なります。

例：「素内申が9科で34以上、かつ1がないこと」
「3科（国数英）の合計が10以上であること」
「3年間の遅刻、欠席が10日以内であること」
以上の全てを満たすこと。

（2）募集人員 全定員の50%以内と定められています。

（3）合格発表までの流れ

- ①本人と保護者が高校の個別相談会に参加し、個別相談を受けます。
- ②入試基準を満たし、本人の入学意志が固いことを確認します。（12月三者面談迄に）
※合格したら必ずその学校へ進学することが条件となっています。
- ③12月15日から中学校の教員と、高校側とで成績資料等による合否の可能性について入試相談が行われます。
- ④1月上旬に出願手続きを行います。
- ⑤1月22日前後に入試を受けます。
- ⑥入試当日、入試後に合格発表を確認します。

※高校から提示される成績の基準には、出願基準と合格基準があります。出願基準の高校では、入試当日の適性検査や面接等の得点が合否を左右します。

（4）入試方法

- ①面接（1対1または1対多数の学校もあります。志望動機・将来の目標・高校で学びたいこと等が聞かれます。）
- ②作文（中学校で頑張ってきたことや、これからの抱負等について書きます。）
- ③調査書（都立形式が多いですが、私立統一形式、高校独自形式の学校もあり、1年次からの成績、出席状況を記入する学校もあります。）
- ④適性検査（複数教科の試験を行うところが増えてきています。）

（5）その他の推薦

上記のような学業成績以外にもスポーツや部活動、芸術、その他の特技をもった生徒を特別に優先する推薦制度をもつ学校もあります。

中央大学杉並高等学校を第一志望とする場合、指定校推薦（推薦枠は1名）を受けることができる場合があります。詳しくは、三者面談等で担任にご相談ください。

2 一般入試 ※都内の多くの私立高校は2月10日・11日に入試を行います。

(1) 一般受験

基本的に当日の学力検査で合否を決定する受験形態のことです。

- ・何校受験しても何の制約もありません。
※受験日が重なる場合は、1校しか受験できませんので、ご注意ください。
- ・公立高校の一次（分割前期）の合格発表まで、入学金・施設費等の延納を認めている高校が多いです。※ただし、延納願など手続きが必要な場合もあります。
- ・学力試験は、国語・数学・英語の3教科が中心です。
- ・学力試験は学校の特色があり難しい問題が出される場合もあります。過去の問題を解いて傾向をつかむ必要があります。
- ・全募集定員の50%まで推薦入試で決まり、残りの枠の中でも優遇措置で受験している生徒も多くいるため、合格者は定員よりも多く出すものの、一般入試の募集の枠はかなり絞られてしまっている場合があります。希望する高校の募集人数・募集方法を個別に確認する必要があります。

(2) 併願優遇受験

事前の入試相談を通して、第一志望の高校の受験に不合格の場合に入学したい旨を伝え、当日の学力試験の結果が優遇される制度です。中学校の入試相談日（12月15日）までに、各高校の個別相談会に参加し、相談を済ませておく必要があります。

特徴としては、以下の5点が挙げられます。

- ①「第1志望の高校」を公立（都立）高校に限るタイプの高校もありますが、最近では私立も可とする学校も多くなってきています。
- ②高校側から提示される入試基準は、第1志望で受験する推薦入試の基準よりも高くなっています。
- ③この制度を利用して合格した場合は、都立高校の分割後期・二次募集に出願することはできません。
- ④国語・数学・英語の学力試験に加え、面接を実施する高校もあります。
- ⑤公立高校の一次（分割前期）の合格発表まで、入学金・施設費等の延納を認めている高校が多いです。※ただし、延納願など手続きが必要な場合もあります。

(3) 第一志望優遇

推薦入試の基準に満たない場合でも、合格できたら必ず入学することで、点数加算などの優遇が得られる制度を用意している学校もあります。

※なお、埼玉県や千葉県など他県の私立高校の入試の日程、選抜方法は東京都と違います。受験する可能性がある場合は、ご家庭でも情報を集めるとともに、担任にも早めにご相談ください。

3 その他の入試

通信制サポート校

サポート校は、勉強やそれ以外の相談にも乗ってくれる場所で、通信制高校とは異なります。学校教育法で定められた法的な「学校」としての認可を受けていないので、サポート校だけでは高卒の資格を取得はできません。高卒の資格を取得するためには、必ず通信制高校への同時入学が必要となります。ただし、通信制高校を卒業するには、レポート（課題の添削）、スクーリング（面接指導）、テスト（試験）を通じて単位を取得しなければなりません。通信制高校では、勉強は独学で行わなければならないため、途中で挫折してしまうケースや卒業までに5年以上かかってしまうようなケースが目立つのが現実です。そうならずに3年間で卒業できるよう、学習面、生活面、精神面でサポートすることがサポート校の目的です。

例：クラーク記念国際、飛鳥未来、学校法人角川ドワンゴ学園N高等

【参考資料】通信制高校ナビ



7 推薦基準について

推薦は、校長名で、学校が行うものです。推薦者については、全教職員で協議し、校長の最終判断をもって決定します。本校では都立・私立に関わらず、以下の条件を満たすことを基準とします。

石神井中学校の推薦に値する生徒（以下①～⑤の条件をすべて満たす生徒）

- ① 欠席・遅刻・早退が多くない生徒（正当な理由があり、認められる場合を除く）
 - ② 学校や社会のきまりを守り、学校内外での生活態度が落ち着いている生徒
 - ③ 各教科を通じて授業態度が良く、意欲的に学習に取り組んでいる生徒
 - ④ 委員会・係活動、その他学級の当番活動などを誠実に行うことができる生徒
 - ⑤ 進路決定後および卒業後も、推薦されたということを、自覚をもって行動できる生徒
- ※ 部活動・外部活動などの推薦においては、上記①～⑤を満たし、さらにその活動でめざましい活躍をした生徒

8 保護者の皆様へ

中学校での進路指導は、各学級担任が個々の判断で行うのではなく、校長をはじめすべての職員が関わり、学習進路部や学年全体で、一人ひとりの進路選択について、最良のアドバイスができるよう進めていきます。推薦の可否は、学年会職員会議をもとに校長の判断で行われます。各生徒の進路実現のために、学校全体で協力して取り組んでいきます。ご心配な点や疑問などがありましたら遠慮なくご相談いただければと存じます。

(1) 学校説明会について ※学校説明会は多くの学校が事前予約制です。

近年は、都立高校、私立高校ともに学校見学会、公開授業、学校説明会、部活動体験等を積極的に行っています。進学先を決める上で、上級学校を訪問し、自分の目で高校を確かめることは、必要なこととお考えください。求めるものの違いにより、ある人にとって良くても、別な人に必ずしも良い学校であるとは限りません。そもそも良いかどうかは、あくまで本人の感じ方です。何ができる学校なのか、本人が何をしたいのか、ご家庭で話し合い、確認しておいてください。

○納得した進路選択をするためには、学校説明会には、できるだけ保護者同伴で参加し、複数の視点で学校を見学することが大切です。

○特色ある学校が増え、特別な学科や多様なシステムがあり、きちんと説明を聞かないとわからないものが数多くあります。ひと手間かけることで、本当に自分に合った学科・コースを知る可能性も広がります。

○学校によっては、説明会と同時に個人相談会を行う学校があり、その出席を、推薦や併願優遇の要件と考えたり、加点をしてくれたりする学校もあります。また、都立高校の文化・スポーツ等特別推薦も練習会などに参加し、部活の雰囲気などを事前に把握しておきましょう。

●目先の判断で、大学付属校に決めてしまったが、そもそも自分が希望する学部がない大学で、3年後、結局他大学を受験する選び方をしてしまった例がありました。

●見学に行かないまま校名だけで受験を決めた結果、入学後思っていた以上に通学に時間がかかることに気づいた、考えていた部活動が自分で期待したレベルでなかった等、事前に情報をもつことで防ぐことができた例がたくさんあります。

(2) 奨学金について

経済的な理由で就学が困難な場合、いろいろな団体による奨学金制度があります。東京都私学財団の「東京都育英資金」がそれにあたります。奨学金により、応募条件が異なります。今後も随時、学年だよりやリーフレット等でお知らせしていきます。詳細につきましては、各担任までお問い合わせください。

(3) 就職について

就職を希望する生徒には、ハローワーク池袋を通して就職に関する指導を進めます。秋までに事業所見学、12月に相談票の提出、1月以降に都内一斉選考が行われます。就職を考えている場合は、各担任までご相談ください。

縁故就職については、ともすると雇用条件が不明確になりがちです。就職後に賃金・労働時間・休日等に関して問題が発生し、それらを契機として早期に離職するケースが多く見られます。トラブルを避けるため、ハローワークへ求人申込を行うようお願いします。